京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料 一行(五號活字十七字詰)一回金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久驛一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社
電話大三番 振替口座京城四五大番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

雜録

●新領土の舊山河(三)

與謝

▲鴨緑江(二)

◎歷史的鴨緑江を觀るに先ち、吾人をして暫く地誌を繙かしめよ、本江の源は半島の最高地、白頭山より發す、山中の一湖水は實に本江及豆滿江の搖籃たり、湖中の水、東せんと欲するは豆滿江に下り、西せんとするは本江となる、然かも北鮮一帶の地貌は、本江及豆滿二江の流域一帶に其特徴を發揮するが故に、地勢亦等しく兩江は父(發源)を同じくし又母を等しうする兄弟なりと云ふも不可ならず。

◎本江流域百四十里、河床の勾配急にして且岩礁多く又水量比較的多からざるに激流奔湍の個所勘からず、故に航運河としての價値大ならざるは惜むべし、支流を呑む事十七、人ならば蓋斗酒尚足らざる大酒漢なるべし、其大なるもの虚川、長津江、渾江、靉河。

◎航運河として價値少なしと雖、亦輕々看過すべからず、河口より溯る十五哩、安東縣より上流は二百石積の帆船を以て楚山までは航行し得べく、河口より百十餘里なる帽子山までは十五六石積の小船を遡らしむるを得。

◎然かして本江に依る物資の運送が幾千の日時を要するや、是を知る必らずしも無用にあらざるべし。

地名	距離	上航	下航
龍岩浦義州間	九里	五時乃至二日	四時乃至十時
安東縣義州間	三里	三時半	三時
義州玉江鎭間	七里	一日乃至二日	二時乃至十二時
義州昌城間	十九里	二日乃至五日	一日乃至一日半
義州碧潼間	三十二里	三日乃至九日	一日乃至二日
義州楚山間	四十四里	七日乃至十五日	三日
楚山通化間	六十里	七日乃至十八日	三日
江口帽子山間	百十數里	四十日乃至六十日	十四日乃至十五日

◎本江を通じて出入する貨物中最も著名なるは材木なり、吾人は是に對して觀たる所稿を改めて記さんとする希望を有するを以て今茲に述べず、材木に次ぐは平北の主要物産たる柞蠶即是なり、道長官河上常郎は斯業の發達に意を注ぐ頗る熱心なるものあり、今夏炎暑を犯して南滿州を經芝罘に赴き、柞蠶糸の需要及市場等詳細を視察し、大に得る所有り鋭意改良に力めつゝあり

◎河上常郎は嘗て大邱財務監督局長として令名あり、彼の夫人才色兩全久しく大邱の交際界の女王たりき、今尚然るべしと信ず、河上は其性謹嚴にして事務に委し、惜むらくは器宇大ならず然れども前途春秋に富む、勉めて倦まずんば必らずや大成せん。

◎材木柞蠶を外にして輸出は大豆、米の類、重需なる輸入品は綿布、石油、煙草、綿糸等、江の吐出一ヶ年の額約二千萬圓、輸入や〻是に劣る、亦盛ならずとせず。

◎盛は乃ち盛なりと雖、吾人の聊か飽足らざるは是等の貿易が主として支那戎克に依るものなりと聽く一事なり、余は是を新義州の某々に質す、某々答へて曰く、是に對しては平北の有司目下策有り、客年來着々其計畫の歩を進めりと讀く所詳細なり、余暫く諱を容れて茲に記さず。

◎又聞く内國通運の吉村甚兵衛、本江沿岸の貿易及運輸業を開始せんが爲過般視察する所ありきと、其擧や宜し、僅々二十五萬の資本に止めず更に大規模の計畫を立て〻彼の特有の怪腕を振はん事を望む。

◎鴨緑江の經濟的價値に就ては語るべき多きを有す、然かれども吾人の新日本の山河を見むとする、唯牙籌の爲にあらず、物質的眼光耳を以て品せんには山河靈有らば正に泣くべし、割愛して更に趣味深き史上の回想に歸り、江が裝はれたる歷史の彩を娛まんとす。

●議政府深勝記(四)

松琴生

僕は最早酒食に要なき身だ、れ邪魔すも心無き技なんめりと堂に上らず境内樹木幽邃の場所を相して石上肢を枕として休足した、俯して溪谷を觀れば巨岩磊落、淸冽の水其間を流れ而して小魚の點々游泳し人を見て驚かざる有り、四邊を回顧すれば松樹の緑り滴る間の萬木は黄葉を點綴し又颯々たる涼風の何處よりか紅葉を飛散し來る有り山寺の幽寂僕をして低徊去る能はざらしめたので猶ほ醉を林外に轉せしに半畝の瘠畠に寺僧兩三方さに蕎麥の收穫に餘念なきを見た、僕の吟懐は此瞬目に依って一種のインスピレーションに觸れた樣で有った

山寺に蕎麥刈る僧の衣白し
小魚寄る溪流にもみぢ落葉して
白菜に畑なき寺の厨哉

午後二時山を下る、處々の山崖巖角に楓樹の燃ゆるが如く紅葉せるの趣有るも第一枝を折りて家つとにす、又高山植物科に屬する梅鉢草の滿開せるを發見した、宛然身の信山越嶺の中に在るの想がした、餘りのなつかしさに二三株を堀り取りて持歸った、三時四十五分議政府發淸凉里驛より電車の御世話に預り東大門を入りて自分の草庵に歸着した(終)

文苑

田中道圓禪師が故郷へ歸るとて詠れたる時に一曲離歌切抱痾歸故鄉漢陽吾去後楓葉飽風霜といへるが京城新報に記載しあるを見てよめる歌

加藤梅雄

當のこす言葉の綾にもみち葉の錦も色を添て見ゆらむ

田中道圓禪師の歸郷を送る

加藤梅雄

黒染の衣にかゝるもみち葉は心ありげの錦なりけり

渡邊玄哲

さらぬだに淋しき秋を君行かは御法の道を誰にとはまし

くず、もみぢ、あきのくれ、といふ十文字を沓冠折句にてよめる

加藤梅雄

くすしむもすゞの木しげき、もりのうちの、みやゐけだかく、ちぎこそ見ゆれ

外事一束

△湖北●省孝感縣及び黄州革軍に陷いり南京一帶警戒嚴重也淸廷狼狽し軍人

△恐怖●の色あり皇族悲觀し滿廷擧措を失日文電報を檢閲し京漢線旅客を拒

△革命●亂に對し米國新聞一般に領土保全を搖かすなきを云ひ日本に注視す

△征討●司令官陰昌袁世凱と會見し十八日發す袁猶湖廣總督就任を固辭す

△四川●省に官軍の捷報あり今却て匪亂猖獗趙督民心を得ず大局危急の報來

△歐州●各新聞の對淸論調極めて愼重也這般の事治まるも革黨結局指導せん

△英區●埃及合幷說否認す伊サモス島占領せん土軍内訌あり獨帝訪瑞說あり

梁川庄八

小金井蘆洲演

第十七回

往古から愛臣寵臣のないのを名將と稱へますが、源頼朝は梶原北條の奸を採用ゐ、織田信長は森蘭丸を愛した、抔と云ふ例がいくらも有ります、何うも此愛臣寵臣の爲には目の晦む者で、伊達政宗侯位の方でも千慮一失なきにしもあらずで政宗公生涯の過失で、又敵は天下の法度と云ふ事を御失念になつたのです、最と祝すべき佳辰に大手下馬先に家の輔弼翼賛の重職にある者を討て血汐を以て汚す憎い奴、主水の心中嘸かし無念であらうと、直樣主水の歎願を取上げられ引渡されました、斯くては際限のない事でございます、藻庭主水は君命に依て町奉行塞川又右衛門より庄八を、最と嚴重なる乘物に入れて受取ると、廣瀨川の屋敷へ伴て來ると、庭前の乾の方に鬼門除の稲荷がある、其傍の處へ栗の五寸角を二寸位づゝ隔てゝ、根元深く大地に打込み

高さ七尺餘り、廣さは三尺四方位の假牢を拵らへ、下へは荒蓆を敷いたばかり家根はふかず、雨露に打たれ方体、其處へ庄八を入れて側に番人を附けまして、其上食事と云へば朝夕玄米の握飯一つしか與へない、實に慘酷な目に會すのだ、而して時々引出すと椽側に主水は近侍の者を從へ傲然と座を構へ、左も憎くまし氣に見下し 主「コレ梁川庄八其方今度我父周防を大手前に於て討ったるは、案ずる所恐らく御當家に對して陰謀を企つ者の有て其者の煽動を受け先第一に我父の仇と名を假りて害したる者であろう何うぢや、其同類本人を白狀致せ」と口實を設けて取調べる、何か名義がなくては拷問に掛けられないから右の口實で拷問に掛けて責め殺そうと云ふ心算なのです、庄八憎れる眼光炯々の如く 庄「默れッ……我は一個の武夫たり他の教唆煽動に依て人を討つ如き卑怯未練な者ではないぞ、我は藻庭周防を怨らむ所の事情は汝も能く知り、人も又能く知る所ならん、我れ父の遺訓に背き怨むべきを怨まず、只管文武を磨き梁川の家名を興さんと思ひし素願、圖らず主君の知ろし召し給ひ、再興の御内命迄下りしを、汝の父の周防正盛が又々佞辯を弄し、君の明を蔽ひ遂に御沙汰止と計らつたり、即ち親の仇家の敵黄泉の父の無念を霽すは、汝の父の一命を縮むるより外に道なし、臣としては忠に止り子としては孝に止る、父の遺訓に基き不倶戴天の復讐をなしたるは俯仰天地に恥ぢざる心得だ、加之汝の父は老臣の權威を濫にし已れに阿り諛ふ者は採用ひ、左あらざる者は是を害す、我等怨の一念凝つて討取たるは君家の大奸を掃除したるにも當る、我等町奉行所へ自訴致したは大手下馬先を汚したる罪容易ならずと心得、主君へ自訴致したのだ、然るを汝親の敵なりと願立てゝ我を引取りしは非義非道ならずや、汝の如き非道の奴に物言ふも穢らはし、父を討たれて無念ならば速に我首を刎ねろ……謀反人杯と口實を設けて拷問に掛け長く困らしめんとは不仁の至りなり其位の差別は心得てあろう、サア斬れ〳〵」と氣焔萬丈當るべからず礑と睨みつけた 主「フム曳かれ者の小唄と云者だ……詞れなく我父を害し身分をも顧みず我に對して、惡口雜言不屈至極の白者メ、速に此者を拷問に掛けて憎くき舌の根止めてやれ」と傍の者に云付ると、轉て拵へて置た責道具を取出し來る、樫の山道雁木の上へ座らせて背を泣柱と云柱に縛付け、膝へ石を乘せて右左から双肩を押へて搖振るんです、搭る者ではない山道雁木が兩脚かメリ込む、豪傑でも勇者でも叶はない、綿の如くに疲れると赦して又牢へ入れる、又引出しては拷問に掛る、實に目も當られぬ有樣、斯くの如くにして一命を絶んと云ふのです、慷慨悲憤の怪男子梁川庄八の一命の危き事風前の燈も啻ならぬ有樣で御座ります、ヤ話變つて彼の岩沼の鶴兵衛は三月三日仙臺の城下へ出た庄八が、大手前下馬先で藻庭周防を討取つたと云事が僅か五里の處ですから直ぐ耳に入した 鶴「ハ、ア惜い者あつて藻庭樣をれ討ちなすつたのだろう、是も是非がない今に若樣がれ歸りに成つたならば、直ぐ此國をれ立退き申させやふ、今更仕方がない此上は若樣の身の上を安泰に何處へなり共立退かせるより外に道はないと心中種々考へて待てど暮らせど戻つて參りませんから心配で堪らない、急遽仙臺の城下へ出向きました。



東京電報

▲海相の伏奏 齋藤海軍大臣は二十四日參內 天皇陛下に拜謁仰付けられ渡韓中の情況に就き委細伏奏する所ありたり

▲公債償還決定 二十四日大藏省告示を以て公債二千万圓十一月三日抽籤十二月十五日償還の旨公示されたり

▲驅逐艦急行 驅逐艦白雲、敷波の二隻は廿三日午後三時佐世保を出發清國の某地點に向け急行せり

▲臨時費拾萬圓 清國動亂事件に關し我居留民保護の爲め艦船の增派及其他臨時必要の經費を支辨する爲め豫備金中より臨時事件費として差當り凡そ拾萬圓を支出する事に閣議に於て決定したりと

▲動亂と艦隊 清國動亂事件に關し各國は續々軍艦を動亂地に派遣し中にも英獨兩國の如きは東洋艦隊司令長官自ら其の指揮に任じ居れるが我國は清國に對し特種の關係を有するのみならず第三艦隊所屬艦數は漸次增加し旅に列國との權衡上近々古參中將を派遣し其指揮に當らしむ可しと

▲上海は靜穩なり 革命內亂の餘波を受け一時恐慌を來したる上海は漸く靜穩に赴き金融順境に向へる旨同地駐在領事より公電ありたり

▲文官の定期叙勳 文官定期叙勳は十二月末頃發表さるべし

▲內閣と赤十字 日本赤十字社にては清國の內亂に關し本邦人及外國人を救助する爲め醫師五名看護婦長若干名看護人十五名都合二十五名の臨時救護班を組織して派遣すべしと

北京特電

▲宜昌沙市陷落 英國領事館に達したる確報に據れば湖北省宜昌は革命軍の手に歸したり又沙市も二十二日革命軍の爲め占領せられたりと

▲宜昌占領の別報 宜昌は革命軍の占領に歸したる旨同地米國領事より米國大使館に報告ありたり

▲敗北せる官軍 江岸停車場附近にて十九日革命軍と會戰し大敗して潰走せる官軍は步兵第二十二聯隊及第三旅團の一部なり同軍士氣振はず逃走を企つるもの多し

●雲南省も不穏なり 雲南府にも革命の大暴動蜂起の兆あり嚴戒中

●雲南外人立退勸告 雲南府に於ても暴動の兆あるを以て在留外國人に對し至急立退きを勸告せり

●北京の警戒嚴密 革命黨は北京に於て一大動亂を起し官兵の南下を防止せんとの計畫を有せるものゝ如く北京の警戒は極めて嚴重となれり

●杭州も不穏なり 外務省着電 杭州は人心恟々たりしも昨夜は無事過ぎたり然れど尚不穩にて上海に避難する者多し

上海特電

●叛軍の優勢 叛軍は二十二日長沙府を確實に占領せり△安慶又不穩なり△蕪湖に叛軍來り新兵を募集す飢民の進んで應ず

●官軍退却す 漢口柳下廟の官軍は叛軍に不意擊を喰ひ戰死百名大砲六門を遺棄し三沙府に退却し二十日同地附近に於て又々衝突して大敗し百五十名の死体を遺し孝感縣に去りしも二十日再び擊退され遂に北走せり

●革命軍の北進 革命軍は確實に江岸を占領したるを以て更に北進し漢口を去る二十里の地點に據れり

●金融界順調 一時險惡なりし上海方面に於ける金融界は漸次順調に向ひたり

外國特電

●內閣と青年黨 土耳古 土耳古青年黨首領等の集會に於て決議案を可決せり內閣に關する總理大臣の動議し利益の有効なるを以て土耳古青年黨議會は內閣に對し信任を決議す

雜報

●未墾地の調査進捗 客月十六日以來農商工部に於て未墾地調査を開始したる黃海道金岳郡の二千五百町歩は目下一千四百町歩は目下實地調査中なるが豫期以上の好成績にて着々進捗して居る各地の調査は一月十日前後迄は完了期調査は今尙は未定なるも多分四十五年二月頃より南鮮各地に分派し調査に着手する事に略ぼ決定したりと

●九月末の國有未墾地 農商工部調査に係る本年九月三十日現在の國有未墾地の貸附處分の狀況を聞くに總件數四十五件にして同反別一万六千三百十四町歩なるが之を日鮮人別にせば內地人百〇九件にして反別八千六百七十七町歩同鮮人百三十六件七千六百三十七町歩なり尙は國有未墾地處理規程發布前に於て貸下の認證を與へたるもの鮮人に二十四件同反別三千六百九十六町歩なりと云ふ

●定例長官會議 二十四日午後一時より總督府に於て定例長官會議を開き寺內總督を始め山縣政務總監、各部局長官、警務總長列席政務の打合せを爲し午後三時散會したり

●朝鮮施政史編纂 總督府編纂課に於ては統監府の最初より本日に至る間の朝鮮施政史を編纂中なりと

●天日製塩作業中止 朱安及廣梁灣に於ける天日製鹽は本年は降雨多かりしため製鹽額も幾分減少せしか昨今晚秋に入りて快晴なるも蒸發力なく多少の收穫なきに非るも人夫賃を支拂ふては到底收得と引き合はさるを以て本年の作業は十一月初旬を以て休止すへしと云ふ

●道學務主任召集 來る十一月一日より實施すべき朝鮮教育令施行細則に涉り打合すべき必要を認め來る十一月十日頃各道學務主任を內務部に召集する事に決し近々召集狀を發すべし

●秋蠶成績調査 農商工部にては豫て各道に命じ本年度秋蠶成績調査中なりしが近々發表さるべしと

●鮮米關稅撤廢に就て ……某當局者の談……
△鮮米關稅の撤廢に對する主たる反對論は總督府關稅收入の減ずるを云ふ爲するも如し然れど總督府全般の收入は朝鮮の產業的開發につれて鐵道及通信等の收入其他租稅收入の增加等に伴ひ次第に遞增し鮮米輸出に由る關稅收入は左迄重きをなさゞる狀態に進みたれば今や唯一の反對說の根據たる總督府歲入の減少の如きは全般に比例して特に重を置くに及ばざる譯となりをるを以て自然其內に廢止さるゝ事となるべしと信ず元來朝鮮の產業は農作物を主とし而して此農作物の獎勵發達は內地農民の移住に俟たざるべからず然るに輸出稅の如きを設けて農民の收入を減ぜしむる制度は內地農民の移住を阻む事大なるべきは論を俟たざる事なれば若し本稅にして撤廢されなば移住殖民增加し農業の著しき發達を見延びて產業勃興に大なる寄與をなすことゝなるは疑なし
△鮮米代用問題は 內地取引所の商事に屬し官憲の手を以て天降り的に强制する事を得ざる故に農商務省に於ても懸賞的に取引所に對し慫慂しつゝある模樣なるが取引所側の容易に肯諾せざる所以は思ふに數量の僅小や品質の如何に非ずして所謂相場師連の思惑を立つるに朝鮮の農況迄考慮せざるべからざる事となり大に不便なると共に供給の充滯は價格騰落の機會を尠くし面白き相場、作る事を得ざる事等が反對の意志中に含まれ居るもの如し云々

●英大使の訪問 二十三日夜安東縣より入京しソンタクホテルに投宿したる英國大使マグドナルド氏は二十四日午前十一時寺內總督を官邸に訪問したり

●總督と英大使 寺內總督には二十五日午後六時より來京中の英國大使マグドナルド氏及當地駐在英國總領事を主賓に山縣政務總監其他各長官等を招待晚餐の饗應ある由なり

●英大使の出發期 英大使の當地出發期は今尙は未定なるも多分二十六日頃なるべしと

●天長節祝賀會場決定 既報の如く來る十一月三日の天長節には內地人朝鮮人官民合同の下に大祝賀會を開會する筈なるが會場は長谷川町元南別宮(圜丘壇)構內と決定し會費は一圓にて來會者は來る三十日正午迄に京城民團役所若くは各所屬衛生組長に申込むべしとなり尙當日は會場に於て酒肴券引換へに祝酒及折詰を配布し模擬店を開き其の間藝妓妓生の手踊餘興等ある筈なれば定めて盛況を呈することならん次に舉式の順序は昨今奉祝會の鮮人委員間に交涉中なるを以て一兩日中に決定すべく其の上にて發表する筈なるが當日は務つて參加あられたく尙市中の有志は假裝行列又は其の他の趣向を凝し各種餘興の催しあらんことを望ましきものなり

●天長節と總督府 總督府に於ては來る十一月三日の天長節には官民數百名を招待し盛大なる祝賀會を催さんとて目下夫々に準備中なり

●上田司令官消息 朝鮮各地の守備隊巡閱中の上田軍司令官には二十四日午後四時釜山着二十五日午後六時より官民の招待會に臨席し二十七日同地發歸任すべしと

●最近京城金融界 最近に於ける京城の金融界は夏季以來少繁の氣配を持續し殊に仕入期に當れるを以て市況幾分の活氣を添へ加ふるに米作の豐穰も略ぼ決定し前年に比し約百三十万餘石の增收ある見込なるを以て幾分一般の人氣を强うし從つて事業の勃興を促すにいたりも資金の需用を增加し其の結果各銀行とも預金は減少して貸出の增加を見るにいたりたるが今後農民の收穫終了時期にいたらば又多少の變動あるべしといふ

●移出港別鮮米品位 日本內地に移出する朝鮮米は群山を首位とし鎮南浦、木浦、馬山之れに亞ぎ仁川は近年著しく減少せるが這は京城及び附近地方の取引增進せる爲め斯くは減少を見るにいたりしなり而して今爰に是等朝鮮米を輸移出米として鑑別すれば馬山米は品質優良乾燥良好調製稍や良好にして海外輸移出米としては特等品なり釜山米は乾燥調製兩ながら佳良にして食飯用としては極めて適好し木浦米は品質釜山米に匹儔し乾燥調製光澤共に良く海外輸移出米として優に馬山米に亞ぐ南浦米は品質乾燥共に釜山木浦米に劣らざるも調製粗惡殊に籾の混入多く輸移出米としては不適當なるも唯早稻米には赤米稗及土砂等の混入なく品質却々に良好なり群山米は品質可なるも乾燥調製共に宜しからず從つて梅雨期に變質して貯藏に堪へざる患あり されど白付早く加ふるに佳味にして光澤好く精白用として用ひらる次に仁川米は往年は南浦米と同じく籾米多く混入しありしも近年にいたり全然改良せしを以て今は木浦米と伯仲の間にありといふ

●京城民會開設 京城民會は來る二十七日民團樓上に於て開會の筈なるが附議議案は豫て委員の手に依つて審查濟みとなりたる四十三年度決算報告等なりといふ

●輸出朝鮮紙狀況 從來朝鮮紙は支那に向け輸出せらるゝもの多かりしが其需要地として主要の地位を占めをれる芝罘に於ける狀況を其筋にて調査せし所によれば
△朝鮮紙の用途は 芝罘にあつては專ら柞蠶絲製造所に於て製絲の包裝に用ひ其他支那家屋の窓張り等用途頗る廣く五十梱以上を販賣しをれる店舖三戶あり而して同地には此他清國產外國產又は內地產の紙亦相應の販路を有せるも之等を朝鮮產と比較するときは各其用途を異にし各特色を有するを以て別に他國產紙に壓倒せらるゝ事なきも茲に注意すべきは
△朝鮮產の改良を要すべき點なり別に需要者たる支那人間に改良上の成案なきも窓張用として丈夫の點は缺點なきも尙は白色ならば更に賣行多からむとの事なり
△將來の見込 に就ては柞蠶絲の包裝には專ら朝鮮紙を用ひ他に競爭品なきを以て此方面に於ては柞蠶絲の好況と益々增加の見込なり窓張用としては耐久の點に於ては優るも漸次玻璃のために壓倒せらるゝの傾向ありと
△運賃及到着迄諸入費 仁川より芝罘に至る朝鮮紙一梱の運賃一圓二十錢芝罘に於て艀舟及苦力費にて約二十錢を要し關稅は從價百分の五を徵せらるゝのみなり

●東拓採種田の良成績 東拓會社にては米作改良の目的を以て本年五月各出張所に採種田を設け內地の稻種を移植したるが何れも成績好く江景出張所の採種田の如きは早生神力にして一坪株數十斗落四十三株一株本數十斗落十七本乃至二十本の成績を見るにいたりといふ

●水力實測班出發 通信局に於ける水力電氣地點の實測班は一兩日中當地發北漢江及洛東江實測の爲め出發すべし

●東拓の貸金高 東拓會社金融部に於ける最近の貸出高は總計約七十萬圓にして內公共事業に貸出せるもの約二十萬口數に於ては內地人よりも鮮人多きが鮮人は開城附近のもの比較的多しといふ

●日本電報通信解停 去る十六日筆禍により發行停止の厄に罹りし當地の日本電報通信支局發行の日本電報通信は二十四日解停の命に接し今日より如舊發行す

●朝鮮墓地取締規則起草 本年四月朝鮮日本人商業會議所聯合會より其筋に向け發布方請願せし朝鮮墓地取締規則に就ては其筋に於ても聯合會請願の趣旨と同意見なる由にて目下同規則の起草中なりと云へば不遠發布を見ることとなるべし

●鴨綠江鐵橋開通式準備 鐵道局に於ては鴨綠江鐵橋開通式準備の爲め目下忙殺され居るが京城其他より參列者の便宜を計らん爲め當日午前九時半新義州着(前夜京城發)及午後八時新義州發(翌朝京城着)の臨時列車を運轉する筈なりと

●總督の醫院病室訪問 寺內總督は二十二日藤田判官を隨へ總督府醫院入院中の藤川控訴院判事の病狀を見舞りと

●藤田醫院長の歸任 鎮南浦の赤十字支部總會に臨席の爲め出張せし藤田總督府醫院長は二十三日歸院す

●山縣總監夫人の歸東 山縣政務總監夫人は二十四日午前九時南大門發列車にて歸東の途に上れり停車場には各夫人の見送り盛なりし

●英大使夫人の清遊 英國大使夫人は二十四日令孃及び兒玉伯爵夫人小松長官夫人小宮次官夫人等と景福宮後園慶武臺に於て清遊を試みたり

●山田代議士の歸東 滯京中なりし代議士山田桃作氏は二十三日出發歸東す

●關野博士の行程 古建築物及史蹟等調査の關野博士一行は二十三日中に開城に赴き直ちに引返し慶州方面に向ふべしと云ふ

●大橋主幹の歸京 鎮南浦赤十字總會に臨席の大橋主幹は別項藤田醫院長と同伴二十三日歸京す

●村田憲兵中尉の北鮮行 村田憲兵中尉は二十三日午後十時四十分南大門發列車にて咸鏡南道へ急行したり

●村井憲兵大尉の巡視 村井第一分隊長は二十四日より二十八日迄管內の各分遣所を巡視す

●秋山技師依願免官 總督府通信技師秋山武三郞氏は去る十九日附を以て依願本官を免ぜられたり

●京日社の園遊會 京城日報社にては來る二十八日午後一時より景福宮後苑慶武堂に於て發展祝賀園遊會を催ふす

●長野縣人懇親會 來る二十八日午後四時より米倉町高田家に於て長野縣人懇親會開催會費一圓八十錢同縣人及同縣に緣故あるの來會を希望すと

●櫻井小學校上棟式 櫻井小學校增築校舍は既に外廓を建てたるに依り二十四日午後四時より上棟式を舉行せり

●江華島農事改良 江華島警察署長は米質の改良の爲め稻田中の稗を除去するの必要を感じ即郡街と協議の上郡街より各面里に其趣旨を訓令し警察署に於ても之れと協力し督勵することゝせしが客月十五日より末日に亘り全部除去の實行を了せり尙收米に際して總て蓆を用ひ土砂と混入せしめざる樣獎勵の計畫なりしも本秋は其準備調查等の爲め全部の實施は不可能なるも成るべく共用の方法に依り蓆を使用することゝし之も警察に於て盡力しつゝあり

●困難なる發音 官立漢城外國語學校の編纂に係るもの國語の發音及語法に關し常に經驗せる材料を蒐集分類し且つ附するに其の原因の一班を以てせり蓋し朝鮮に於ける國語教授上の參考資料たるを失はず

●漢江渡航の船体檢查 龍山警察署にては漢江西江及び揚花津各渡船場渡船の檢查を行ひ總數六十二隻の中危險の[illegible]渡航を差止めしもの九隻ありたりと

●「朝鮮の蠶業」頒布 農商工部にては各蠶業技術官實地調査に依つて成れる「朝鮮の蠶業」と題せる冊子を[illegible]其他に配布したりと

●京都の朝鮮觀光團 京都日出新聞社にては今回朝鮮觀光團を組織する由にて加入有志を勸誘中なりと

●京畿道の稻種 京畿道內各郡の本年米作收穫期に際し稻種の扱方を改良すべく技手を各郡に出張せしめ各傳習中なりと

公人私人

▲豐永眞里(水原農林學校教授農學博士)廿三日巴城ホテルへ
▲鈴木篤重(海軍中佐)同
▲山田桃作(衆議院議員)同
▲川北榮作(工學士)同
▲中口千代二(海軍技師)同
▲小泉孝藏(陸軍歩兵少佐)同
▲關信之介(茨城縣選出代議士)同

▲京城手形交換高

十月廿四日	三四一、二〇〇

▲治外法權

清國の革命の動亂も、其形勢を觀ると、[illegible]人にとつては、南軍が勝つた、イヤ北軍が勝つたと其の會戰も無いので、[illegible]で持切る▲待ては海[illegible]西太后が亡くなられた爲に、一旦政治的の死を遂げた袁世凱が亦々清政界の[illegible]袁出でざれば蒼生を[illegible]スバラシイ勢ひ、コレだから人は[illegible]寢て待つが良いの[illegible]出掛けて一ト勢ひ[illegible]かつたのは丁度[illegible]州征伐に出掛けた[illegible]引揚げて專任陸相[illegible]鮮臺が袁總指揮官[illegible]ゝや解た歡迎する[illegible]る清國債は又々四[illegible]十八磅となつた、[illegible]ける銀の相場は[illegible]コ銀は今日に於て[illegible]し、而かも此上に[illegible]ソレに引換へ清國[illegible]なもの一兩の札が[illegible]れでは北京政府も[illegible]過日東京へ行つた鮮人[illegible]ら伊勢參宮をサセ[illegible]て、記者の主張の[illegible]後と雖も內地へ行[illegible]參宮をサセる樣[illegible]某々の實業家等が[illegible]設立認可の申請[illegible]ルト總督府は直[illegible]外、一喝相成ら[illegible]の事だが、一体[illegible]は何か。



●總督府醫院を觀る(一)

覆面冠者

大韓醫院が總督府醫院と變つた、藤田軍醫總監が菊池博士に代つて院長となつた、醫員が改革せられた、[illegible]

看護婦に對する病者の不平

[illegible]看護婦は人間である、看護の職を以て衣食の資とする者である、加ふるに女子である、衣食の爲めに心にもなき仁慈を裝ふ[illegible]哀れなる女である、親切、厚意! [illegible]

病人を紙幣束の化者、看護婦を觀世音

病人を目して衣食住の資即ち紙幣束の化者と觀し居る看護婦と、看護婦を觀世音と觀し入院料を夫れに奉つたる賽錢と思ひ御利益の必ずや顯著なるものあらんと期待して居る病者とが何時までか能く衝突せずに終らうや、入院第三日にして既に『不親切な看護婦』なる語は患者の口から出で『我儘な病人だ』なる語は看護婦の居を洩れる、而して兩者の陰口は久しからずして全然意志の疏通を缺くに至るのではあるまいか、機會が在つたら白ばくれて實状を觀察すべく考へて居た、去る二十日の午後友人の某が咽喉病で二週間豫定を以て總督府醫院に入院したと通じて來た、青木堂で見立てゝ[illegible]クリームフインガーを携へて電車に搭じた(つゞく)

●不人情な鄭晒朝

▽右女助の逆戻り

一方鄭さんは本年六月年滿きとなつた[illegible]貪込着かれ別借金[illegible]婦氣取りで梅毒療治の爲め[illegible]溫泉に入浴し全快後[illegible]妓置家を開業させ[illegible]ふのが頗るの美形[illegible]梅吉には極内で一[illegible]なんぞは脚下にも[illegible]の方でも鄭さんの[illegible]りに朝鮮サラミと[illegible]生れの鄭原友雄と[illegible]に受け暫くは双方[illegible]で居たが夫れでは[illegible]を寶塚にチャイし[illegible]國の林の木浦の港[illegible]は大ハイカラで帳[illegible]たり、然るに鄭さ[illegible]城に來た序に翡翠[illegible]助が既報の通りの[illegible]杯食はせる氣だナ[illegible]れよう」と一切夢[illegible]日したら現金取引」[illegible]自放題の事を云つて[illegible]しがるのを見て内心[illegible]右女助の積も殘つて[illegible]然ればこそ何程催促[illegible]のなれば其後の鄭[illegible]れけり、夫れとは[illegible]さんと未始終一緒に[illegible]ものか一年か長くて[illegible]春日和の長閑な事を[illegible]の處へ訪ねると帳[illegible]が鎭座して居るハテ[illegible]ると面食つたのは鄭[illegible]利いたとは思つて[illegible]結果が遂々警察署に[illegible]損て某旅館に案内し[illegible]出で署長の裁判で鄭[illegible]附人の木浦迄の往復[illegible]した外更らに手切金[illegible]ゝ歸京したのは去[illegible]右女助朋輩に語[illegible]が大連へ支店を出し[illegible]れるのよ、ホントウ[illegible]の事は書き賑きましたからザッと話しただけ(終)

●喜劇「遠出の失策」

▽旅館に憲兵准士官

朝鮮全道に布かれたる警戒線は併合後間もなく撤去せられたるが啻り京城花柳界に布かれたる戒嚴令は今日に至るも猶且其儘、遊ぶのなら買うのなら斯う云ふ風に土地を放れてからにすべしと譯れが見本を出したと云ふ譯でもないが聰い智惠は附き安く此頃では申し合せた如に藝妓買ひは遠出に限る、併し乍ら仁川や開城や大邱邊位では未だ/\油斷出來ずと苦勞性の連中は鴨綠江を越て大安心の胸を撫で「遠出/\アハヽ」と云ふもある中に此は又大膽不敵の斯界の猛者に何某と云ふ紳士てうあれ過る日小閑を得たるより一寸生命の洗濯をと美妓なにがしを伴ふて龍山は京城の内なれば油斷はならず然りながら仁川までには及ぶまいと横着にも永登浦にて下車し今夜は緩然枕を外して寢るべく、サア斯うれチャと洒落変りに乘り込んだ濱田屋旅館にても此頃流行の遠出と委細呑み込んでの夫婦扱ひに納り返つて案内に伴れて通る廊下で擦れ違つた男の顔を一目見るより紳士殿何うした事か顫ひ上つて終ひ「俺は大變の用事を忘れて居た引返さにや成らない、イヤ何と云つても引返す、泊るなら前一人宿れ」と廊下の異中から引返す狂氣染みた所置に「一人でなら京城でも枕を外して寢られますが全体何うしたんです」と假仕立の奥さんの不審するには答もねせで急かし立てゝ折から來蒐つた列車へ飛乘りても未だ顫ねは止らず「確かに彼れは準士官だ、憲兵さんだ大變だ、夫でも好かつた助かつた、報告だけはされたかしら」とビク/\もので引返し二三日が程は熱のサシヒキもあつたとか、然るに一方恐ろしがられた其人は濱田屋の奥座敷に出張先から伴れて來た美形の二人を右左り醉つて枕を外して寢た翌朝の一番列車で何喰はぬ面を南大門驛に現はした、斯くと知つたる某紳士口惜しがるまいことか「夫れで居て他人の事は八釜敷云ふのだナ、チエーッ口惜しやなア」

●元井門支店常枝の召喚

▽良人の犯罪に關して

新町遊廓井門支店より本年四月東京府生れ佐々木カホル(二三)が常枝と名乘り現れしが原因は實兄某が醫科大學卒業前に資金不足の爲めとの振れ出しにチヨンガーの野心家は常枝/\と名指しにて登樓する者多く非常の賣妓となりし中にも鹿兒島縣人當時本町一丁目代書業日高貞夫(二九)とて元某警察署詰巡査なりしが放蕩淫逸に耽り遂に免職となり特許辯護士小川勝平氏の事務員となりしが間もなく解雇せられ獨立して代書業の許可を受けしが相當の得意を取りし事とて常枝の下に月に二十日通ひ居たるが本月五日常枝は親元へ歸籍を稱し實兄來り故樓主の方にては元金四百十五圓丈けにて違約金及利息其他別借等は帳消しになりたるが如何なる理由にか國元に歸りたる筈の常枝は日高貞夫方に居るより見る人をして奇異を感ぜしめしが日高貞夫は二十四日午後二時其筋に私書僞造行使詐欺取財犯として拘引せられ常枝も關係者の一人にて召喚せられしが眞實の異想に付ては犯罪捜査上差支に付後日報道す可し

●粋な久水三郎氏

▽歌子孃もサゾ御滿足

仁川府尹久水三郎氏の長女歌子は三郎氏の長男久氏存命中に於て所謂許嫁として河上謹一氏の長男弘一氏と結婚の約を整ひ弘一氏は專ら學業修業中なりしが今回某大學を卒業せしより相互間に於て之れが内約の成立を希望せるも久水家に於ては久氏死亡後歌子は純然法定の推定家督相續人たるの故を以て去月二十日親族會議を開き決議の結果弘一歌子兩人の希望を滿足さしめんが爲め今回石塚嘉良を代理人として歌子を法定推定家督相續人廢除請求事件を仁川區裁判所に提出したりと云

社告

天長節奉祝の爲め本社主催の下に擧行さる可京城藝妓總出の神田祭式手古舞行列に關する詳細は次號に於て發表仕候

十月　京城新報社

●觀劇を中止して人殺

▽惡口されしに憤慨して

仁川松坂町二丁目九番戸小幡竹松方土方職河鍋長太郎(二六)が同職外十數名と仁川稅關建築工事に從事中八月六日土本市松と芝居見に行く可き約束を爲し置きたるに夕刻になり中垣審造外數名僕も連れて行けと云ふより河鍋は懷中金一圓にて二人も三人もは覺束なきより用事を作り觀劇中止し同夜八時過ぎ銘酊して市中を散歩中中垣春造外數名と出會せし際中垣に罵言せられしを憤慨し中垣を殺害して京城地方裁判所仁川支部に於て懲役十年に處せられ不服とし控訴し京城控訴院に於て鈴木判事裁判長となり山口水野兩陪席西内檢事立會の下に公判開廷せられ被告辯護人として木尾辯護士出廷せしが事實の審問終り辯論に移り檢事は控訴棄却の論告ありて木尾辯護士は犯罪の動機が被害者の挑發に因り起りし事件なれば傷害致死罪に處罰す可きに殺人犯とせしは不當なりと又被告には六十有余の老母ありて他に扶養す可き者なく被告は非常に心配して悔悟しつゝあれば情狀酌量して刑の執行猶豫あらん事を求むと辯論し言渡は來る二十七日に決し閉廷したり

●小憎らしき控訴事件

▽人を殺して懲役が不服

元總督府巡査小田原修介の傷害致死罪は第一審に於て懲役三年に處せられしが被告は不服として控訴せしに付來る十一月一日京城控訴院刑事部法廷に於て公判開廷せらる可く辯護人としては辯護士木尾虎之助氏出廷す可しと

●仁川に死体漂着

二十三日午前七時頃恰も滿潮の際仁川稅關埋立地稻田組出張所前の海中に一人の鮮人死体漂着せるより折から碇泊中の艀乘組鮮人等にて陸上に引揚げ直ちに警察署に報告ありたれば前田部長石巡査久木田醫士及壬生稅關港務醫士等出張檢死を遂げたるに死後尚數時間經過せるのみなるが多分飲酒泥醉し海中に墜落し死したるものならんと屍体は勞働者なるも住所姓名不詳なるより死体は面職所に引渡したり

●蝎甫檢擧さる

裴南伊(一三)呉順南(一三)朴山江(二五)陳花茎(二一)裴姓女(二七)柳占順、(一三)李姓女(二十)呉姓女(二六)崔飛翠(一六)奇姓女(二九)李蓮花(一九)鄭姓女(一七)黃成川(二一)文美仙(一六)鄭玉葉(一六)の十五名は無鑑札蝎甫にて檢擧され各過料に處せらる

●少女の盜み

南部茶洞十六統十三戸居住少女吉貴同(一一)は二十三日午後三時半頃若草町一丁目五十二番戸荒木老松方に忍び入り金二圓二十九錢入り財布を窃取し南部署に捕はれ取調中とは憐れなり

●仁川のボヤ

仁川花町一丁目蝎甫屋高敬植(三六)方より二十三日午前〇時三十分頃發火望樓の番人之を見し直ちに常備消防隊驅付け消止む

●演藝だより

▲壽座● 後藤良介一行廿五、廿六兩日の狂言は曾つて上場して大喝采を博したる『黃菊白菊』全八場切喜劇『むすび草』全三場にして好劇家の所望に依り再び上場したる都合なりと場割は祇園の夜櫻、烏滸野の露、貞婦の破鏡少女の行衛、酒戰の大盃、夜半の傑雨お踏の新線、眞如の月影にして一切のいすゞ茸の場割は暁家門前、星野邸宅、上野公園なる役割は左の如し文學士星野(藤野)母國子、吉田久兵衛(深沢)藝妓駒菲(松下)堀野庄三郎(内田)庄三郎女房お近(雪岡)正克妻操子(藤田)金森正克(後藤)

▲歌舞伎座 片岡鶴之助一座二十五日の狂言は「戸田新八」切が義士傳の内「大石南部坂雪の別れ」なりと

▲浪花館 二十五日の番組左の如しタカ奴(枝輔)葉人車(圓松)れふみさん(小圓)太神樂曲藝(藝樂)改良せんさい(圓三)岸柳島(芝鶴)娘奇術(喜代子、福家てるし(翫園)音曲蘿(ジヨンペール)切喜劇總出

●京城夜學校學藝會

▽商業會議所樓上にて

旭町一丁目京城夜學校にては鋭意内容の施設に勗めたる結果既に生徒百餘名を收容し五名の專門講師に依りて中學程度の教育を施し居れるが更らに今回校友會を組織し學藝部、講演部、運動部に分ちて健全なる靑年氣風の振興を圖ることとなりたるを以て來る二十八日午後七時より壽町商業會議所樓上に京城間の多數紳士を請待し之が發會式を兼ねて第一回學藝會を開催する由、尚ほ當日プログラム中の重なるものは一、ベニスの商人(對話)一、アルフレッド、ゼーグリート(英語對話)一、支那革命黨動亂地方の二千年前(演說及び漢文朗讀)一、稍野の晉(國語朗讀)にして其他漢字說爭、英語演說、談話數理解說、和洋音樂、活人畫等頗る趣興多きものなりと云ふ因に當日來會者は招待劵若くは入場券を持參せらるべしと

●觀世流此花會秋季大會

十月二十九日午前九時より壽町二丁目有明樓に於て開催さる番組左の如し

▲高砂(佐々木氏木村氏ツレ村上氏)田村(中島氏佐山氏)松風(村上夫人有賀夫人ツレ佐々木夫人)班女(山口氏寺川氏トモ横山氏)紅葉狩(大田黒夫人小倉夫人ツレ久能夫人)小鍛治(多田氏堀内氏大臣大租氏)夜鳥 秋場氏岩崎氏)千手(岡田氏大田黒氏ツレ深尾氏)俊寛(久能氏村上氏ツレ山口氏花田氏)土蜘蛛(末松氏佐山氏ツレ香月氏清水氏)▲番外 松虫(安住氏前田氏ツレ花田氏)大原御幸(前田氏安住氏ツレ山口氏柴田氏三好氏)▲囃子 杜若(大、中村氏、小、齋田氏太鼓三好氏)櫻川(シテ安住氏、大、齋田氏、小、平島夫人)花月(シテ中川氏大、中村氏、小、齋田氏)仕舞、獨吟、一調、祝言、

土地建物鑛山株券賣買

一市内宅地買渡たし
一市外田畓山買受たし
一鑛業區權利讓受たし
一恰好なる住宅賣物あり
一有望なる未墾地權利讓物あり
一電話讓物あり

小林藤商店
京城明治町三丁目 電話六五五番

確實屋の大賣出し

綿類蒲團は元より呉服部大擴張の御披露として
自十月十九日至十月廿七日 九日間
例の通抽籤にて二割引より色々
一本も空籤なしの御高評是非共御來店の程を願ひます
山まゆ織全部品揃當時大高價の蒲團綿も同様大割引の大奮發で御座います

京城明治町二丁目
唐川呉服店 (電話二六一番)

TRADE MARK 複方 感冒解熱特効劑
アンチヘブリン
四季の引かぜ、はやりかぜ、ねつ病一切づゝうの良藥
發賣元 京都市三条柳馬場角 川杉資善堂
藥價 二日分金拾戔 五日分金廿戔
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 振替口座京城千六十八番

にせ物御注意 振替大阪七七〇
猪飼胃散（いかいさん）
胃病でこまるお方 飲みすぎ食べすぎ
定價十五戔 廿戔 五十戔 一円
本舗 大阪江戸堀 猪飼史郎
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 振替口座京城千六十八番

神經をおこしめ腦病を全治す

島村醫學博士の有効證明を得たる健腦丸は、腦病神經病に奇効を奏し逆上を引下げ、便通を心能し、中風卒中を未發に防ぎ恐るべき腦充血を全治す

腦病全治新藥 健腦丸（商標）
記憶力悪き人 頭痛する人 神經衰弱にて氣分鬱ぐ人 常に腦神經を勞する人の必用藥は獨り本劑のみ也
（藥價 一日分十錢 三日分廿錢 七日分四十錢 二週分八十五錢 五週分金三圓）
本舗 大阪心齋橋二丁目 丹平商會藥房
分店 大阪平野町 東京日本橋
支店
▲賣捌は全國有名藥店に取次す
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話一〇六八番 九〇四番 振替口座京城十六番

最上醬油
釀造元 仁川萬石町 高杉釀造所 電話七六五番

回春 目藥
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九〇四番 一〇六八番 振替口座京城十六番

御料理 金山寺味噌
製造發賣元 京城南大門通 遠藤商店 電話九八二番

米山公債株
京城古市町（南大門停車場前）
米穀證券現物問屋
合名會社 柴山組
電話一二九八 増設電話一六八八番
相場高低表電話日報及店員を派遣して御知らせ致します

銃砲自轉車修理
▲迅速叮嚀 ▲確實に修理仕候
京城旭町一丁目 度支部官舍前
瀧川銃砲修理所

文房具 和洋紙 測量器械
日本政府檢定濟 度量衡器特許輸入販賣所
シノサキ本店
京城本町一丁目（郵便局前）
電話七百五番 長六四八番 振替口座朝鮮一五四番

真正のアイボリー石鹸
IVORY SOAP アイボリー石鹸
米國製 アイボリー
石鹸に僞物あり包紙に御注意を乞ふ

木材防腐劑
電柱、枕木、橋梁、土臺、根太、板柵、床板、羽目板、門塀、流シ、物干シ其他地中水中等に用ふる木材へ塗抹し其命脈を永久保持す
和製プレザアリンは當商會特製品にして品質優良配合調和正確然して價格は舶來品の約半價なり●詳細説明書は御申越次第送呈す
和製プレザアリン 獨國製カルボリニウム 英國製ストツプフロット 米國製ウーチリン
發賣元 東京京橋元數寄屋町三ノ五 渡邊商會 電話新橋二一三八番

株式會社 第一銀行京城支店
資本金 壹千萬圓 積立金 六百貳拾萬圓 明治六年設立
京城南山町三丁目
銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候
電話一一番 二一六番 振替貯金口座京城一二一番

英國製 SWEET HOME BIRMINGHAM ENGLAND
直輸入新荷着
車體堅牢にして優美 スヰトホーム號
歐米各國自轉車直輸入商
京城本町二丁目 織居商店自轉車部 電話四八〇番（電略オ）

くだり病一切の特効藥
健胃固腸丸
主治 ●赤痢病●コレラ病●腸カタル等に用ひて實効速なり ●常に貯へ置き朝夕五粒づゝ服用せば腸胃の衰弱を治し食物の消化を能くす
藥價 [illegible]
本劑は全國到る所の賣藥店に取次販賣せり
[illegible]
登錄商標 本舗 大阪市東區伏見町堺筋角 谷回春堂（電話東四五八番）（振替貯金番號八三〇）
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 千六十八番 振替口座京城十六番

澤庵漬込の時期は愈々目前に迫れり
極上等一本撰十七貫詰新澤庵漬壹挺
二千樽限り 特價金參圓卅錢にて
本月中漬込御注文に應ず
京城南大門通り二丁目
東京澤庵問屋 キ島屋 電話九〇三番

磨擦白米
龍山積米所 京城米倉町 電話一二一番

入院隨意
京城壽町三丁目（電話三七八番）
中島醫院
院長 醫學得業士 中島貞信

効能ある温泉

浴用効能 りうまちす、ちうぶう、しんけいつう、ぜんそく、かつけ、らいびよう、ばいどく、せいできもの、ひりんびよう、しようかち、しきゆう、ひのいたみ、つきやくふぢゆん、せんがん其他皮膚病一切
外用効能 きりきず、やけど、しもやけ、ただれ、わたまがさ、あせぼ、まんせいできもの、いんきん、たむし、うちきず、ひぜん、はのいたみ、いんこうかたる
内用効能 ひんけつ、しんぞう、あびよう、ちようかたる、いびよう、はいびよう、たんだん、かつけ、しんけいつう、りようまちす、せきずい、ちゆうふう、げり、はらいたみ、病後衰弱、りんびよう、しようかち、しきう、酒のよい
京城長谷川町一丁目 銀座鑛泉所北横手（電話一四一一番）
旅館 浴客 貸席
鐵冷温泉

仁川 八景園
靜養所
今回諸事改良をなし最も便利に取扱申候
（電話五五二番）

朝鮮仁川港
木綿、太物、メリヤス、文房具、紙、帳簿類、干物、食料品、鑵詰、荒物、金物、洋傘、日鮮人向雜貨
帝國化粧品研究所 明月あらい粉代理店
御商 ヨ 小林倉三郎商店
電話三六六番 振替口座京城一九九番

各府縣諸官衙御用
長製造
第五回内國勸業博覽會一等賞受領 ◎内國製産品評會二等賞受領
弊會製造に係る喞筒は多年の研究と實地經驗に依り製作し其製品の構造緻密にして強く器械の完全なるより各警察、市町村役場其他より賞賛狀或は感謝狀を接手するは弊會の幸榮とする處なり
◎弊會へ御注文は御書狀に依るも御直談に依るも直段及製作上甲乙を附せざるに付右御承知願上候
◎製品は十箇年の保險證を附し御注文順次第送呈可仕候
◎雛形及定價表は御一報次第送呈可仕候
消防用ポンプ 鑛山用ポンプ 自家用ポンプ 田畑用ポンプ 附屬品一切販賣
大阪市西區阿波座上通三丁目 浪花喞筒商會 電話西二三〇一番

猟銃 猟具 火藥
增戸銃砲店
京城本町六丁目

一日にして効能は現る
複方タルリン
りん病はらい藥
緒方、高橋兩病院長有効證明
價 三日分廿錢 七日分四十錢 十四日分七十五錢
本舗 大阪日本 高橋盛大堂
代理店 京城本町五 木下大盛堂 同南大門三 新井藥房
到る所の藥店に販賣す

仁川海岸 旭屋旅館 電話二五一
既に好評の陸軍指定旅館 鐵道院指定旅館 仁川水產組合指定旅館 第一各保險會社指定旅館なり
弊館には夜醫の設備有り
御客様の安全此の上なし

東京流納豆大安賣

特製 實味噌 御料理向
味噌製造 漬物問屋 仁川本町三丁目 たからや 電話七三七番

本場精撰 茶
右銘茶各種新物續々入荷に付御小賣とも大勉強仕候間多少に不拘御用命願上候
仁川本町四丁目（府廳通） 田中芳春園 電話四五〇番 振替京城五〇二番

茲齋流割烹 す津祢
南山町一丁目 電話千五百二番

薄口醬油 や
特約 仁川京城 高雄支店 販賣

うちみ くじき はねつぎ
◎家傳◎かつけ◎胃腸病◎專門灸治
京城明治町一丁目百十 荒川摩擦術療院 電話（一二五八七番）

名譽銀牌受領 キリンビール

キ 十月中 滊船出帆廣告
安來丸 蔚島行 十月廿七日前九時
天草丸 海州行 十月廿七日前三時
三省丸 屯串行 十月廿六日前四時
海利丸 海州行 十月廿五日前九時
安來丸 大湖芝行 十月廿三日前十時
合資會社 仁川本町四丁目 電話一七三番 七一〇 秋田商會船舶部